

トコジラミ



最近海外でもニュースになっている、痒み被害を引き起こすトコジラミ
今回は、国内で増加しているトコジラミの
生態と対策についてご紹介します

トコジラミの生態

トコジラミは「シラミ」と名前につきますが、実際はカメムシの仲間です。普段は壁やベッドの隙間などに潜んでいますが、人が寝静まった後に這い出し、露出した肌から吸血します。体長は成虫で5mm～8mmで、体型は丸く扁平で薄いです。飢餓に強く長期間吸血しなくとも生きることができます。メスは1日に5～6個の卵を産み続け、一生に500個もの卵を産みます。卵は2週間で幼虫になります。

最近では殺虫剤が効かないスーパートコジラミも確認されています。

トコジラミはどこから？

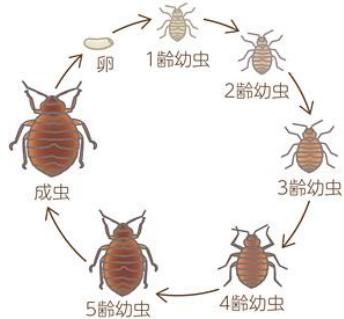
トコジラミは翅が退化しているため、人や物にくっついて分布を拡大させています。旅行先等で荷物や衣服に付着して、持ち帰ってしまうことがあります。また、インターネット等の個人間で商品を売買する場合、商品に付着して持ち込まれることもあります。

トコジラミ対策

トコジラミは、ベッドや布団の周辺、ソファーの隙間やカーテンの折り目、壁と床の隙間などあらゆる隙間に潜んでいるため、発見が難しいです。

しかし、トコジラミが生息している場合には血糞という血が混ざった赤黒い糞のシミができるため、これら潜み場所の目視確認や血糞の有無により早期発見、早期駆除が重要です。

多数生息している場合には個人で駆除するのは難しいため、早めに専門業者に相談することをお勧めします。



(血糞と卵)

発行 アペックス産業株式会社

〒105-0014

東京都港区芝2-23-4

TEL:03-3455-6474

FAX:03-3455-6558



旅行・帰省時にはトコジラミに注意！

トコジラミとは？



トコジラミの卵

トコジラミの写真

○体長：5mm～8mm（成虫）
○体型：丸く、扁平で薄い
○特徴：夜、部屋の隙間等から出てきて活動し、人や動物を刺して吸血します。吸血しなくても長期間生きることができます。長く空室になった部屋でも注意が必要です。メスは1日5-6個の卵を産み、2週間もすると幼虫になります。刺されると強いかゆみの症状が出ます。

どうやって持ち込まれますか？どんなところにいますか？

卵や幼虫が荷物や、衣服の裏やポケットなどに付着して、室内に持ち込まれることがあります。



ベッドや布団の周辺、ソファーの隙間・裏、引き出しの裏、衣装ケース、壁と床の隙間、カーテン、壁にかけた絵の裏など、あらゆる隙間に潜り込みます。



見つけたときの対応策は？

早期発見・早期駆除をすることが大切です。生息しやすい場所に血糞があったり、トコジラミを見つかった場合は、被害の拡大を防ぐため、技術、知見を持つ専門業者に調査、防除を依頼しましょう。



<相談窓口>

○ トコジラミの被害への対応に関する一般相談は保健所まで

QRコード お近くの保健所は
こちらから検索できます

○ トコジラミの調査や防除に関する相談はベストコントロール業の事業者団体まで

トコジラミ ベストコントロール業 団体

検索

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare